

朗読者・絵本専門士の派遣レポート Vol.1

大分県立美術館「虫展」で、講座修了生が読みきかせ会を開催

文字・活字文化推進機構では読書推進の一環として、全国の文学館・美術館・博物館などで開催されるイベントへの朗読者・絵本専門士の派遣をお手伝いさせていただいております。

記念すべき第一館目として、8月11日・25日に大分県立美術館『養老孟司と小椋山賢二「虫展」～みて、かんじて、そしてかんがえよう』の関連イベントとして、「山根基世の朗読指導者養成講座」第7期修了生・竹下杏奈さんが「むしのえほんよみきかせかい」を1Fキッズスペースにて開催しました。2日間各2回ともに大人含め30名程度の参加がありました。



当日の読みきかせの様子

【朗読者・竹下杏奈さんの選書】

- 『ぼく、だんごむし』
(徳田之久作/たかはしきよし絵 福音館書店)
- 『むしプロ』 (山本孝 教育画劇)
- 『はらぺこあおむし』
(エリック・カール 偕成社)
- 『虫ガール』
(ソフィア・スペンサー 岩崎書店)
- 『むしのあいうえお』
(今森光彦 童心社)
- 『カブトくん』 (タダサトシ こぐま社)
- 『「じぶん」のはなし』
(ようろうたけし作/よこやまかんだ絵 講談社)
- 『むしさん、みつけた』
(徳田之久 童心社)
- 『かぶとむしのぶんちゃん』
(高家博成・中川道子 童心社)
- 『とべバッタ』 (田島征三 偕成社)

▶朗読者・竹下杏奈さんの感想・コメント

30分で読める量は大体3冊でした。この量だと子どもたちとコミュニケーションをとりながらゆっくり読めました。

4冊になった25日は子どもの年齢層が低く、コミュニケーションを取るには少し難しい子どもたちが含まれていたため、できる限りたくさん読んでみようとした結果です。

むしプロは人気作でしたが、これは3冊（いずれもカブトムシがテーマ）用意したうち、子どもたちが聴きたいものを私が読む、という方法をとった結果です。幼児（6歳）～小学校低学年の男の子たちに人気の作品でした。

むしプロ以外に用意した本は『カブトくん』と『かぶとむしのぶんちゃん』でした。

ちなみに、自分でもいくつか本を購入しました。『とべバッタ!』『セミくんいよいよこんやです』『くわがたのがたくん』の3冊です。『とべバッタ!』は小さい子よりも大人の方が一生懸命聴いていました。

▶美術館のご担当者様からのメッセージ

「子どもたちの笑顔が印象的で手前味噌ながら非常に良い読み聞かせ会になった」
 「非常に素晴らしい朗読で、『ああ、お子さんの気持ちわかってるなあ』とうれしくなりました」
 「良い雰囲気をつくってくださりお子様が食い入るように絵本を見つめているのが印象的でした」
 「良い方を紹介いただきありがとうございます」

大分県立美術館X
開催報告



<https://bit.ly/3D7xDMF>

朗読者・絵本専門士の派遣事業では、2024年度は最大20館への派遣を予定しております。企画を検討されているご担当者様からのお問い合わせ・ご応募をお待ちしております。

詳しくはこちら！▶



<https://bit.ly/3zOJ61V>